

【最優秀賞】（北海道知事賞）

タイトル：人権の本当の意味

生徒氏名：長谷川楓

私には目があまり見えないおばあちゃんがいます。しかし、よくおばあちゃんと二人で近くのスーパーに買い物に行ったりします。

スーパーに行くと、おばあちゃんに、何を持ってきてほしいかと聞きます。すると、おみそとしょうゆを持ってきてなどと答えてくれます。そして、おばあちゃんがゆっくり買い物をしている時に私が食べ物などを持ってきます。だからおばあちゃんは私の事を頼ってくれます。

しかし、土・日や休日以外だとおばあちゃんは一人で買い物に行きます。歩いて買い物に行くのは大変なので、私がない時はタクシーで行きます。しかし、タクシーでお金を払う時に五十円玉と百円玉がわかりづらい、千円札と五千円札も区別がつきづらいと言っていました。だから、一人で買い物に行く時は時間がかかり大変な思いをしているんだろうなあと思いました。

また、お金を払う場面はタクシーだけではなくもちろん買い物でもあります。タクシーであれば何百円、何千円ぐらいです。しかし買い物では、一週間分ぐらいの食べ物を買うため何万円ぐらいになります。金額が大きくなるほど細かい小銭やお札を出すのが多くなるので、どれがどれだかよけいにわかりづらくなると思います。

そして、ある日のことです。その日は土曜日だったので私はおばあちゃんと買い物に行っていました。買い物の量もあまりなく、これぐらいならおばあちゃんが会計するかなと思っていました。そして、おばあちゃんも物を袋に入れてといてと言っていたため、袋に物を入れていました。しかし、おばあちゃんが気になって見ていると、五千円札と千円札を間違えて出そうとしていました。私はあわてておばあちゃんの所へ行き、五千円札を出しました。しかし、私はその時聞きました。「チッ」舌うちの音でした。おばあちゃんの後ろに並んでいた男の人が小さく舌うちをしていたのです。しかも、それだけではなく遅いなあとボソッと言っていました。きっと、おばあちゃんがレジの会計が遅くてイライラしたのだと思います。私は、確かにレジなどが遅いとまだ終わらないのかとイライラすると思います。しかし、つえのついたお年寄りなのだから仕方ないとか、待ってあげようなどと思えないのかと思いました。

そして、このことをおばあちゃんに話しました。すると、ごめんねと言いました。おばあちゃんは何もしていないのになんでごめんねって言うの？と聞きました。おばあちゃんは答えました。

「おばあちゃんみたいに体が不自由だと、周りの人達に迷惑をかけてしまうんだよ。普通のこと、普通に出来なくなるからね。」

と言っていました。私は、おばあちゃんはずっと「ごめんね」と思っていたのだろうか。

そうだとしたら、いつも頼まれた通りに動くだけの私はおばあちゃんのためになっていないのではないだろうか。と思いました。人のことを助けるということと、人のためになることをする。この二つは、同じようなことではなく、実は違うことなのではないか。と、ごめんねの一言で考えさせられました。

人の人権を尊重するイコール人を助ける。この考え方は本当に正しいのでしょうか。その人は、本当に助けを求めていたのか。人権を尊重するということは助ければ良いということではないと思います。その時の状況や相手の気持ちを考えて行動することができて、初めて人権を尊重するということだと思います。

人の人権を理解するには努力が必要だと思います。人は無意識に人の人権を侵害しています。そして、なぜそうなるか。それは、人は自分イコール相手になっているからです。自分はこう考える。だから相手もこう考えている。簡単に言うと、自分の考えや思いを相手の気持ちも考えないで押しつけているということです。全ての人がそうということではありませんが、そういう人がいないことはないと思います。ですから、自分も相手も同じ人間であるということを考えて、相手の気持ちを考えていくこと。これが、人権を守ることにつながるのではないのでしょうか。

人権は、みんなが持っている権利です。みなさん、自分と相手の人権を大切にしてください。